



うるおい豊かな美しいまちなみの創造②

かわまちづくり

～にぎわいのある河畔空間の創出～

河川局 河川環境課

河川は、それぞれに固有の自然・歴史・文化などを有し、上流から下流までのつながりを持ちながら、地域の暮らしと密接に関係しています。河川が有する多様な機能を発揮させ、その魅力を最大限に高めることは、沿川地域の暮らし、ひいてはまちづくりや地域の活性化につながることから、各地でまちづくりや観光振興と連携した河川整備が実施されています。

にぎわいのある河畔空間の創出事例

水辺を観光・まちづくりの核として、にぎわいのある河畔空間の創出を目指している事例をご紹介します。

①大阪府・大阪市

「水の都」大阪を再生するための取組みが、河川整備に加え、河川占用の特例措置の活用などにより進められています。道頓堀川では、河川管理者である大阪府が、河川敷地占用許可準則の特例措置を実施する区域として国土交通省より指定を受け、官民の調整のもとで河川敷地におけるイベント開催などの社会実験が実施されています(写真1)。

更なる取組みとして、平成20年8月に、旧淀川である堂島川、土佐堀川に囲



写真1 道頓堀川遊歩道(とんぼりリバーウォーク)(大阪市資料より)

まれた中之島を中心とした地域において、河川管理者である大阪府が、道頓堀川と同様に国土交通省より特例措置に関する区域指定を受け、社会実験が実施されることになりました。今後、新たなにぎわいの創出を目指し、カフェテラス、売店、船上食事施設など水辺の眺望、環境を最大限活かした民間店舗の占用、さらにはイベントなどへの河川空間利用が計画されています。また、八軒家浜地区では、河川区域内において、親水性の高い連続的な公園整備や、水上交通ターミナルの整備が進められています(図1)。背



図1 八軒家浜イメージ図(大阪府資料より)

後地の鉄道駅ビルと一体となって、陸上交通施設と水上交通施設の接点ともなる、かわの空間とまちの空間が融合した、魅力ある都市空間が生まれようとしています。

②千葉県香取市

千葉県北東部の香取市では、民間活力を活用したPFI事業と河川占用の特例措置を利用した、川とまちをつなぐ広域交流拠点の整備が進められています。

江戸時代から利根川舟運の物流拠点



写真2 小野川沿いの街並みと舟運 (佐原市資料より)



図2 民間活力を活かしたレジャー・舟運など観光の核となる施設の整備 (イメージ図)

として栄えた香取市では、小江戸の古い街並みが小野川沿いをはじめとする市内中心部に残っています。この街並みを観光の核として活用するため、市民が中心となって観光ボランティアガイドの実施や、まちおこし会社の設立による観光舟運の運行など、地域の資源を最大限に活用した、さまざまな取り組みが行われています (写真2)。舟運の実施に際して

は、河川管理者により舟運を考慮した水門操作を実施しています。さらに、小野川と利根川の合流点である佐原本宿耕地地区では、高規格堤防上に洪水時における円滑かつ効果的な水防活動と緊急復旧活動などの拠点となる河川防災スリーションの整備に加え、利根川の景観を活かした「文化交流の拠点」としての地域交流センター(事業主体

は市)などの整備が計画されました。これらの施設の整備にあたっては、河川事業としては初めてとなるPFI事業が導入されることとなり、参入のインセンティブとなるよう民間事業者の自主的な創意による事業として、河川敷地内である当該エリア内での飲食店経営が計画に盛り込まれました。実現に向けて、当該エリアは平成20年3月に、河川敷地占用許可準則の特例措置を行い、香取市を介して、PFI事業者が河川敷地の一部において、オープンカフェなどの設置・運営を行うことを可能としました。国・千葉県・香取市・民間企業、市民による地域づくりの活動が連携し、地域住民と広域から訪れる人、そして利根川と小江戸の佐原文化の多様な交流を促進し、まちの観光拠点としての整備が期待されています(図2)。

今後の取り組み

ご紹介した事例は、河川の中でも、歴史・風土といった地域固有の特性、地理的条件でやや有利と思われる河川が対象とされてきました。今後は、都市再生・地域再生の観点から、よりその門戸を広げ、実施していくことが重要と考えられます。

そのため、国土交通省では、河川利用による地域活性化を望む熱意ある市町村などの支援を行う「かわまちづくり」の支援制度の創設を検討しています。本制度は、河川や水辺をまちづくり・観光の核として活用し、地域の魅力向上を目指す市町村などに対し、河川管理者としてハード・ソフト両面から支援・推進する新たな制度です。

①ハード支援

・まちづくりと一体となった水辺整備を積極的に推進します。

②ソフト支援

・現在、社会実験として行っている民間事業者による河川敷のイベント広場やオープンカフェなどへの利用を拡充します。

・市町村などの自由な提案・発想を尊重し、河川管理者として「地域づくりのためのフォローアップ」を積極的に支援します。

この支援制度の活用などにより、まちの空間と融合が図られた良好な河川空間の形成が、各地でより一層進められることが期待されます。